

【1】(1)~(3)教科書P222本文および「深める 等質地域と機能地域、形式地域を参照、学習書P189を参考

- ・地域区分は地域の特徴を知る上で有効な手段である。地域区分の「指標」(基準、目印)を何にするかによって、地域区分は異なってくる。たとえば、教科書P229の「②自然環境(気候)を指標とした地域区分」と「③文化を指標とした地域区分」を比べてみると、同じ地域が違う地域に区分されてしまう。
- ・**等質地域**とは、自然現象や社会現象が等質、つまり同じ地域をいう。しかし上に書いてあるように、何を指標とするかによって地域区分は大きく違ってくることもある。一方**機能地域**は、「結びつき」によって設定される地域で、都市圏などがわかりやすい。つまりある都市とその周辺の地域が通勤や通学、買い物などで結びついている場合、その都市を中心とした結びつきで地域を設定できる。

「1節 中国 -項目ごとに整理して考察」

☆私たちは古来中国から様々な思想、文化、文物を取り入れ、日本の国をつくってきた。私たちが日常生活で使っている漢字をはじめ、その影響は計り知れないものがある。中国は第二次世界大戦後、中華人民共和国として社会主義のもとで新しい歩みを始めた。近年は著しい経済成長が世界から注目され、「BRICS」のひとつでもある。人口が多く国土も広大な中国は、様々な可能性を秘めており、今後いろいろな面で世界に大きな影響を与え、地理的に近い日本との交流もこれからますます活発になっていくだろう。その中国について基本的な知識を学ぼう。まずは中国の位置と正式国名、首都名を必ず知っておくこと。

【2】(教科書P229を参照、学習書P190を参考)

- ・中国の国土は、西はインドやパキスタンの北部付近まで、北部は北海道より北まで、南はインドシナ半島北部付近まで広がる。西部には乾燥地域もみられ、自然環境は多様である。

【3】

(1)教科書P230~231を参照、学習書P191を参考

- ・「**計画経済**」など社会主義経済の特徴も理解しよう。また社会主義国なのに、1970年代末から資本主義経済のシステムである**市場経済**を取り入れたのはなぜだろうか。学習書P191も読もう。

(2)教科書P231「④中国の民族構成(2013)」を参照

- ・「%」を書き忘れないこと。

(3)・(4)教科書P231を参照、学習書P120を参考

- ・教科書に書いてあるように、中国の人口は世界の人口の約5分の1である。このような巨大な人口が中国の社会にどのような問題をもたらしているだろうか。また中国政府はなぜ「**一人っ子政策**」を採用したのだろうか。学習書P120も読んでみよう。
- ・(3)については、「**億人**」を書き忘れないこと。

【4】教科書P235~236参照、学習書P193を参考

- ・中国の経済発展は中国の人たちの生活にどのような変化をもたらしたのだろうか。

【5】教科書P236~237参照、学習書P195を参考

- ・人口はどのように移動したのだろうか。またそれはなぜだろうか。学習書P195を読んでみよう。

「2節 韓国 -項目ごとに整理して考察」

☆韓国は私たちの住んでいる九州からは東京よりずっと近い。韓国からは毎年多くの観光客が日本にやってくるが、熊本も韓国からの観光客が多い。日本と違って地学的に安定している韓国には火山がないので、活火山でしかも火口がのぞける阿蘇山は観光地として人気があり、またゴルフを楽しみ、熊本城などを見物して帰る人が多い。日韓の間にはその不幸な歴史から両国民にはお互いに複雑な感情があったが、キムチやチヂミなどの韓国料理は日本でもよく食べられているし、約10数年ほど前に韓国の恋愛ドラマが日本で大ヒットしたことをきっかけに、韓国の俳優や歌手が日本でもよく知られるようになった。このように大衆文化の面で交流が活発であるが、これをきっかけに中国も含めて同じ東アジアの国としていいパートナーシップを築いていかなければならない。

【6】

(1)地図帳P25~26を参考

- ・朝鮮半島の二つの国の位置と正式国名、首都名を覚えよう。とくに位置に注意しよう。

(2)教科書P240~241を参照

- ・最近では観光案内などにも、使われていることが多いのでみたことがある人も多いだろう。

(3)教科書P242~243を参照、学習書P136を参考

- ・欄外の「用語解説」も読もう。

【7】教科書P238を参照

【8】教科書p.229図6や地図帳P13~14を参考

- ・互いの国の立場を尊重した協力体制が望まれている。

【9】学習書P189を参考

- ・斜線等は着色と認めないので、きちんと丁寧に着色しよう。